

主体的・対話的で深い学びの実現をめざして

－ 授業のねらい達成に向けたICT活用のあり方 －

山口市立小郡小学校

1 研究主題について

山口県の教育振興基本計画においては、知・徳・体の調和のとれた教育の推進に向け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習の充実がうたわれている。（令和4年度 山口県教育推進の手引きより）この中で、自ら考え主体的に課題の解決に取り組む授業展開におけるICTの効果的な活用が一つの重要なテーマになっている。本校では、一昨年度より「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした研究を行うと同時に、昨年度よりGIGAスクール構想に基づき、ICT機器の利用、とりわけ児童に与えられた一人一台端末（タブレット端末）の日常的な活用を推進してきた。本年度は、この「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしてより一層の研究推進を図るとともに、日常的な活用に向けて取組を重ねてきたICT機器の効果的な活用のあり方を模索したいとの考えから、「授業のねらい達成に向けたICT活用のあり方」をサブテーマとして、授業のねらいに迫ることができるように、タブレット端末を効果的に活用していくことに焦点を当てた研究や取組を進めてきた。

2 具体的な取組

（1）授業のねらいを明確にし、効果的なICT機器の活用を検討すること

電子黒板やプロジェクターなどは、すっかり学校現場に定着し、多くの教員が使用して授業において成果を上げている。一方で、昨年度より配備されたタブレット端末については、授業でどのように活用すれば良いかは未知数の部分が多くあり、効果的な活用方法については手探りでの使用となっていた。また、昨年度から本格的に利用が開始され、学習に利用される場面は増えてきたが、授業のねらいや教科の本質にせまる手段としてタブレット端末の活用が有効であったかについては、十分に検証がなされなかった。そのため、今年度はタブレット端末の授業時での積極的な活用を推進するとともに、授業のねらいを達成するために効果的な活用方法を検討するよう全校体制で取組を進めてきた。その結果、授業のどの場面でどのようにソフトを使うことが有効か考えたり、単元全体を通してどの場面でどうソフトを用いることが適切であるか検討したりすることができた。

このような取組を進めていく中で、例えば「算数科の図形領域の学習では、低学年からでもタブレットの活用が効果的である。」、「図画工作科の鑑賞の学習では、拡大・縮小機能を使うことでより作品の細部まで見ることが可能となり、授業のねらい達成に向けて意義ある活用ができた。」、「自立活動の中で、タブレットの録画・再生機能を活用することで、児童が互いの動きを確認したり、参考にしたりすることができた。」など、授業のねらい達成に向けた効果的な活用方法について、これまで以上に理解を深めることができてきた。また、年度途中から、スカイメニューについてもタブレット端末での利用が可能となり、発表ノートなどの利便性などについても教職員間で情報が共有され、授業時に

おける活用の幅を広げることができた。

このように、研究テーマをもとに取組を進めてきたことで、授業のねらい達成に向けて、効果的な活用場面を具体的に考え、実践をこれまで以上に増やすことができた。同時に、学習の内容によっては、タブレット端末を用いるのではなく、実際の話し合い活動や黒板とノートを中心とした学習の方が効果的ではないかという意見も出され、タブレット端末の利用が適切である場面とそうではない場面についても考えることができてきた。

(2) ICT機器活用事例を共有すること

タブレット端末の活用や、より授業のねらいにせまる使い方については、全校体制で研究・取組を進めると同時に、特にICT機器の活用に関する若い若手教員を中心とした校内研修を開催し、タブレットでの実践例を紹介したり、共有したりする中で、活用がより一層進むように後押しを行ってきた。また、日々タブレット端末を積極的に活用した場面について、お互いに情報を交換したり、あるいは授業のねらい達成に向けて、このような活用方法ができるのではないかと協議したりする場面を通して、互いにタブレット端末の効果的な活用に向けた理解をより一層深めることができた。さらに、こうした研修の中で出てきた意見を、各学年に持ち帰って中堅・ベテラン教員と共有することにもつながった。

このような取組を通して、学校全体がタブレット端末を今まで以上に活用できるようになり、教員同士が授業について活発に情報交換を行うことにもつながることができた。また、これまではICT機器を使うことに重点が置かれている傾向にあったが、授業のねらいを達成するための活用が大切ということについて共通理解することができた。同時に、主体的・対話的で深い学びにつなげるためにはどうすればよいか、という意見も出され、その課題の解決に向けて協議を重ねることで、よりタブレット端末の活用を充実させることができてきた。



3 終わりに

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、日々の授業において、学習のねらいを明確にしていくことが大切である。ねらいを達成するために、効果的なICTの活用について、今後も研究を深めていきたい。また、今年度の研究成果として、タブレット端末を「いつ」「どの場面で」「どのように」活用したら効果的であるかについて、その具体例をもとに迫ることができたので、こうした研究成果を今後の授業づくりにつなげていくと同時に、さらによりよい活用方法を追究していきたい。また、タブレット端末の活用を進めることができた1年であったが、児童同士の関わり合いについて課題であるという意見もあった。コロナ禍の影響もあり、タブレット端末の利用が急速に進んでいる半面、児童同士が直接関わることを通して、学び合いを進めていくことについて難しさを感じるという意見もあった。今後、ICT機器の活用を通して、児童同士がより深くかかわることができるような取組についても考えていきたい。